

夏のクマに注意！

○ 夏は、山の食べ物が少なくなります

この時期のクマは、山でサクラやクワなどの果実のほか、アリやハチなど、一度に多く食べることでできる社会性昆虫をエサにしています。特に夏の終わりごろは端境期で1年のうち最も食べ物が少なくなるため、人里近くに出没し、農作物に被害を出すことがあります。

○ 夏は、ツキノワグマの交尾期にあたります

6～8月頃にかけてはクマの交尾期にあたります。通常、クマは単独行動ですが、オスとメスが共に過ごすことが多くなります。また、1～2歳の子グマは母グマと別れて暮らし始めます。

○ 夏は、若い個体が入りに近い低標高域で活動します

高山植物を食べるため、山を登って高標高域で生活するクマ（主に成獣オス）がいる一方、比較的若い個体は山を登るクマを避け、低標高域で行動することが多くなります。このようなクマも入りに近づく可能性が高まります。

クマと遭遇しないよう下記のことにご注意してください。

◇ クマ避け鈴、ラジオ、笛などを携帯する

クマは聴覚や嗅覚が人より優れています。人の気配を感じたクマは自ら避けてくれます。クマ避け鈴、ラジオ、笛など音の出る物を鳴らしながら行動しましょう。

◇ 朝夕の行動は避け、複数人で行動する

朝夕はクマが活発に活動します。この時間帯に山中に入ることは避けましょう。また1人ではなく、複数人で行動しましょう。

◇ 周囲を確認しながら移動する

釣りやキャンプで溪流沿いを移動する場合は、水の音でクマも人もお互いに気付かず、思わぬ距離まで接近してしまふことがありますので注意が必要です。

◇ クマのいる場所に近づかない

山中はクマの生息地で、どこにいてもおかしくありません。クマの足跡や糞などを見つけたら、それ以上近づかずに引き返しましょう。

◇ 子グマを見たら立ち去る

子グマの近くには必ず母グマがいます。母グマは子グマを守るために、人へ攻撃することがあります。子グマを見かけたら、そのままそっと立ち去りましょう。

◆ 里地にクマを寄せ付けない対策を

トウモロコシやプルーン、モモなどを栽培している畑や果樹園等の周囲には、電気柵を設置したり、ヤブをあらかじめ刈り払うなど、クマを寄せ付けない対策をとりましょう。また生ゴミもクマのエサです。一度餌付いてしまうとその場所に執着するようになり、人に見つかることを恐れなくなるなど、人身事故の可能性が高まります。